

ようこそ 教育長室へ

教育長 高木 秀人

6月5日(金)に6月市議会定例会が開会し、市長の「所信表明」の演説が行われました。今回から2回に渡りご報告いたします。

<https://www.city.ichikawa.lg.jp/uploaded/attachment/51930.pdf>

【はじめに】

(前略)

また、経済的な格差は、教育の格差につながります。こどもは自ら生まれ育つ環境を選択することはできません。その違いが、教育の質や量に差を生じさせ、こどもたちの人生までも左右します。すべてのこどもたちは、無限の可能性を持っています。生まれ育った環境に関係なく、自らが希望する道を選択できる「機会の平等」を与えてあげなければなりません。

私は前期の4年間、市政に対する信頼の回復を最優先に、「市民目線」と「現場主義」を掲げて、市政運営に取り組んでまいりました。その中で、子育て支援の充実、地域経済の活性化、健康寿命の延伸、防犯・減災対策の強化などを含め、1期目の公約を96.9%達成できました。

市制施行から92年で、「人口50万都市」となった今、本市が抱える課題は、より広範かつ複雑になってくると思われます。本市は、市民に最も近い基礎自治体として、弱い人やハンディキャップがある人の声にも耳を傾け、必要な支援を届けていかなければなりません。

これからは、50万都市にふさわしい行政サービスと都市の在り方を考え、従来の枠組みや、目に見えない壁に惑わされることなく「住民のためにどうあるべきか」「こどもの未来のためにどうあるべきか」を基本に、柔軟な発想とスピード感をもって、本市を新たなステージに乗せていく決意でいます。

【施策】

(前略)

本市ではこれまで、国に先んじて「学校給食費の無償化」や「第2子以降の保育料無償化」また「子ども医療費助成の拡大」など子育て家庭の経済的な負担を軽減する施策を進めてまいりました。

(中略)

子育てをしたいまちを考えるうえで、大切なのは教育です。

令和8年度は「教育改革元年」と位置づけ、5つの重点方針を掲げ、教育委員会とともに推進することで、こどもたちの育成に取り組めます。

その一環として、「(仮称)言語探究科」を新設し、探究的な学びを通じた読解力とコミュニケーション能力を高めつつ、英語教育のモデルを構築してまいります。

学校施設の老朽化が課題となっております。宮田小学校をはじめとした校舎の建替えを計画的に進めるとともに、エアコンの設置、トイレの洋式化などはスピード感を持って整備してまいります。

「教育改革元年」は、新たな選択肢と目標を創出することで、本市の公教育を次の段階へと進めていくものです。少子化が進む時代だからこそ、より丁寧にこども達一人ひとりに寄り添い、個性や可能性を伸ばす特色ある学校づくりを本市が本腰を入れて考えていかなければなりません。

そこで、こどもたちの新たな目標として、魅力ある「市立高等学校の創設」を考えていきたいと思います。その学校では、国際的な教育プログラムである「インターナショナル・バカロレア認定校」として、知識の習得にとどまらず、自ら考え、表現し、世界の大学へ進学する資格の取得を後押ししていきたいと考えております。

さらに「民間からの校長登用」やスポーツ分野における「優秀な指導者の招へい」など、志を持って挑戦できる環境を整え、こどもたちの能力を大切に育てる教育の実現を目指したいと思うのです。

また、支援が必要な児童生徒の増加に対応するため、「特別支援学校」を増設してまいります。

教育は、国の将来そのものであり、市川で育ったこどもたちの選択肢を広げることは、市川市の未来の可能性を広げることにつながります。

引き続き、教育長とともに、魅力ある新たな教育環境の実現に向け、着実に歩みを進めてまいります。

(続く)